令和３年度　２学期終業式

１年間で一番長い８１日間の２学期が終りました。二中は、８月３０日に予定通りに始まりましたが、他市では始業を遅らせたりリモートになったりしました。緊急事態宣言が解除された１０月からは、一気に「体育大会」「文化祭」「修学旅行」「定期テスト」「学調」「講演会」「Ｎ響コンサート」等を息継ぐ間もありませんした。皆さんは、よくぞ短期間にやりきってくれました。生徒とともに先生方にも感謝したいと思います。それでは、印象に残った事を３つ挙げ２０２１年を締め括りたいと思います。

まず、１つめは、先週１２月１５日から３１日まで年末交通安全県民運動が始まりました。私もハナミズキ通りに出て皆さんの登校を見守りました。そうしたら、挨拶の声が素晴らしく、私が二中に来た３年間の中で一番明るく大きな声で挨拶してくれました。四小の郷校長先生も「二中の生徒は、挨拶がいいねー！」と言ってくださいました。これからも、地域の方や、部活や高校入試で行く学校の先生たちにも、「あいさつの二中」をアピールしてほしいなと思います。

２つめは、先日皆さんが回答した教育課程アンケート結果が、昨年度と比べ２５項目中２２項目(ほとんど全て)で上昇したことです。特に９０％以上よかった回答した項目は、「係活動や清掃を責任もってやる」「相手の立場や気持ちになって行動する」「他人の良さや自分の良さがわかる」「制服を正しく着る」「自分で判断して行動する」の５つです。これらの結果から二中生をイメージしてみると、「互いのよさ(違い)を認め思いやり、自分の仕事をしっかりと果たしつつ、自ら判断して行動もできる生徒」と言うことができます。二中生のいいところであり、目指すべき姿だとも言えます。

３つめは、同じアンケートにあったある項目です。それは、私が二中へ来た２年前（今の３年生が１年生だった時）は５８％。それが昨年は６５％、今年３年目は７１％になりました。…（何だと思いますか？）それは、「読書が好き」と言った生徒の割合です。実は、これほどの伸びるとは私も予想していませんでした。

少し話は脱線しますが、ＴＶコメンテイター池谷裕二さんは「勉強（学び）のコツは、孔子の論語『知好楽』」だと言っています。『知好楽』の意味は「何をやるにしても、ただ知っているだけの人より、それが好きである人が勝っている。更に好きな人よりも楽しむ人が勝っている」だそうです。また、今年、地球温暖化等の気候研究でノーベル物理学賞を受賞した眞鍋淑(しゅく)郎さんは、「好奇心の重要性」を何度も言っており「基礎研究の充実は好奇心あってこそ」と断言しています。更に、池谷裕二さんは、高校入試や定期テストなど、親から怒られながら「勉強やれ！練習やれ！」の「手段的動機」は短期的には有効です、が、学びの長期的向上には全くならないと言っています。これからは、皆さんも教師も、「脅して伸ばす手段的動機」から、学習の楽しさや喜びを味わわせ「楽しいから勉強する。（国語、数学…）が好き」という「内発的動機」を増やして、真の学びのに近づけられたらいいなと思います。図書館や職員室前には、図書館支援員の太田さんがタイムリーに本を展示してくれています。国語も算数も社会も理科も英語も音楽も体育も美術も、多くの分野に興味を持ち皆さんの学びが呼び覚まされることを願っています！

校長　　池谷英人